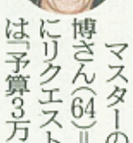
3年でガタきても3万円で色直し まるで新車

いくらお気に入りのロードバイクでも、3年ほど乗ればガタついてくるし飽きもくる。そんな時オススメしたいのは〝お色直し〟だ。札幌市にある「ウルフロード」は、自転車のカスタムペイントを売りにする専門店のひとつ。それぞれのスタイルに合わせたカスタムや修理を手がけ、好みのイメージに仕上げてくれる。4年前に購入した我が愛車もリメイクを依頼。〝世界で一台だけのロードバイク〟に生まれ変わり、気分も新たに晩夏の豊平川を疾走した。（北海道支局・石井　睦）

専門店「ウルフロード」

発注から2週間

残り少ない夏を、ロードバイクで楽しみたい。だが、購入4年で愛着がやや薄れてきている。しかも、最近はすっかり出無精。何とか気分を高めようと、インターネットで見つけた札幌市の専門店「ウルフロード」に愛車（GIANT社製）を持ち込みカスタムペイントをお願いした。



マスターの山本邦博さん（64）＝写真＝にリクエストしたのは「予算3万円以内。単色の淡いモスグリーンを残しつつ、明らかに様変わりしたと感じるように」。発注から約2週間。山本さんの作業は伝えたイメージをイラストに起こすことから始まり、プロの技で見事に仕上げてくれた。

モスグリーンをベースにしたまま、フレーム各部に光沢のあるメタリックグリーンを配色。ペダルは黒から白に交換され、合わせて黒のハンドルを白のバーテープで覆うなど、細かい部分まで手が加えられて質感がグンとアップした。色だけではない。ハンドルの中心部にあるトップキャップはカーボン製に交換。フレームのキズも補修してくれている。思わず「新車か？」と見まがうほど、新鮮な姿に生まれ変わった。

原型は崩さずに

もちろん全塗装すればイメージは全面的に変わるだろうが、それじゃ予算オーバーとなる。「小さなお金で大きな喜び」が山本さんの信条。「元の色を生かしつつ〝この金額でここまで変わるんだ〟と分かっていただければ」。あくまで原型は崩さず、味付けでオシャレに変身。カスタムペイントの面白さでもある。

こうしたカスタムをメインにする専門店は全国でも珍しい。同店の場合、ペイントは2000色あり、全塗装もよし、フレームだけ、タイヤだけなど一部分でもよし。さらにロゴ貼り替え、パーツ交換、泥よけやカゴ設置まで、あらゆる要望に対応し、予算、ライフスタイルなどに合わせて衣替えを提案してくれる。店内にはカスタムのサンプルもあるから、フラリと立ち寄ってのぞいても楽しいだろう。

さて、目の前にあるのは〝世界で一台だけのロードバイク〟。気分は十分に盛り上がってきた。「お客さんに喜んでもらわないと意味がないからね」という山本さんに見送られ、いざ豊平川へ。愛車のペダルを力いっぱい踏み込んだ。

◀◀フレームにメタリックグリーンの差し色が入った

爽涼な風、心地よい川の音…晩夏の札幌を疾走44キロ

高低差少ない

暑さのピークは越えた。札幌には爽涼な風が吹く。市街を抜けて豊平川へと向かった。川沿いの自転車道は高低差が少なくて走りやすく、何より川の音が心地良い。景色も楽しめる。

北海道内には距離の長い大規模自転車道が10コース（整備中含む）もあり、うち3コースは札幌市と近郊。その中の「滝野上野幌自転車道」は約41キロの最長コースで、豊平川沿いの自転車道が中心となる。

今回は北から南へと走り、真駒内公園を目指した。いくつも橋をくぐり、公園やテニス場、野球場などを通過。ルアー釣りに奮闘する女性、水辺でＢＢＱを楽しむ学生がいる。この日は天気がよく、多くのサイクリストとすれ違った。

生まれ変わった愛車で豊平川沿いを走った（カメラ・宮崎　亮太）

自転車道を突き進むと、そのまま真駒内公園へ入っていける。ここは豊平川と真駒内川の合流点。アイスアリーナからスタジアム、自然林を見ながら、ぐるりと一周し「豊平川さけ科学館」から折り返して再び自転車道へと戻った。

復路はほぼパワー全開。ゴールしてスマホの記録用アプリを確認すると、約2時間半で走行距離は44キロだった。あと1か月もすれば、サケが産卵のために豊平川へ戻ってくる。次は一緒に〝遡上（そじょう）〟してみよう。

◀◀　北大近くにある「ウルフロード」の店舗

◆ウルフロード　札幌市北区北14条西3丁目。北大近くの路地裏にあり、大きな看板が目印だ。主に自転車のカスタムや修理を手がけ、新車購入も可。塗装は予算に応じてだが、フルカラーで約5万円（分解・組み立て費含む）。パーツ交換はサドル3150円、ハンドル1050円、ペダル630円など。キズ補修は3150円から（金額は全て税込み）。営業時間は11時～19時半。毎週水曜定休。問い合わせは☎011・737・1122。